



## ◆ 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年が始まり、教育の在り方が改めて問われる年となりました。昨年12月、文部科学大臣が学習指導要領の改訂について中央教育審議会に諮問し、本年1月には特別部会が発足しました。少子化・高齢化、生成AIをはじめとするデジタル技術の進展など、社会の変化を受け、教育課程の見直しが進められようとしています。その中で、「新しいことや変化に目を向けるだけでなく、現行の学習指導要領の趣旨を再確認し、学習内容の重点化・構造化を進め、より実践的なものにすることが求められる」との指摘がなされています。これは、デジタル教科書の活用を考える上でも示唆に富む視点です。

デジタル教科書は、紙の教科書の延長線上にあるだけでなく、学びの在り方を広げる可能性を持っています。読み上げ機能やルビ表示、動画との連携、書き込みや共有といった特性を活かすことで、子どもたちの主体的な学びを支えるツールとなり得ます。しかし、その可能性を最大限に引き出すためには、新しい技術を単に導入するのではなく、現場の実践知、学術的な知見、そして技術の進展を適切に組み合わせ、子どもたちの学びを深める環境を整えていくことが不可欠です。

本学会は、初等・中等教育の先生方、大学の研究者の皆様、そして教育の未来を支える企業の皆様によって支えられています。本年も、皆様とともにデジタル教科書を通じた学びの可能性を探究し、未来の教育を築いてまいりたいと思います。

また、本年の年次大会は、瀬戸 SOLAN 学園を会場に8月23日・24日の2日間、第14回年次大会（愛知大会）として開催いたします。ぜひスケジュールを確保のうえ、ご参加・ご発表をご検討ください。

本年が、皆様にとって新たな学びを切り拓く一年となりますよう、心より祈念いたします。

日本デジタル教科書学会 会長 広瀬一弥

## ◆ 第14回年次大会（愛知大会）の開催について

本学会の第14回年次大会を、2025年8月23日（土）・24日（日）に愛知県瀬戸市の瀬戸SOLAN学園で開催いたします。

本大会では、学習者主体の学習活動が進む中で、デジタル教科書をどのように活かしていくかを議論します。これまでデジタル教科書は同等の役割を果たす役割とされてきましたが、近年、その在り方について新たな議論が始まっています。本大会では、デジタル教科書を代替教材ではなく、正式な教科書として扱う可能性や、そのための課題について深く考え、未来の教育の方向性を探る機会としたいと考えています。

大会では、基調講演、学会会員による研究発表に加え、情報交流会（懇親会）も予定しています。詳細は決まり次第、随時ご案内いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## ◆ 研究会報告

マルチメディアデイジー図書研究会

デイジー教科書の有効利用につなぐー研究報告と活用事例ー

日本デジタル教科書学会の研究会開催助成金の使用により、表記研究会を開催いたしましたので、以下のようにご報告申し上げます。

日時：2024年12月1日（日）13:00～16:00

開催：ハイブリッド開催（ZOOM ウェビナー＋会場開催）

会場：社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター 4階会議室（大阪市西区江戸堀1-13-2）

参加費：無料

参加者：ZOOM ウェビナー約170名 会場約30名（合計約300名のうち学会会員数は約10名程度）

主催：日本デジタル教科書学会／(NPO 法人)NaD／(社福法人)日本ライトハウス情報文化センター

後援：(公財法人)日本障害者リハビリテーション協会

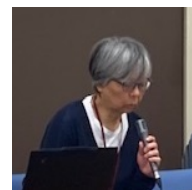
研究会の概要

開会 13:00～13:10

主催団体を代表しての挨拶とマルチメディアデイジー図書・教科書の説明。

大垣 由賀 氏 NPO 法人 NaD 代表

研究報告 13:10～13:55



マルチメディアデージー図書の有効性に関する研究

ー初等教育から高等教育までの継続支援を目指してー

楠 敬太 氏 佛教大学 学生支援センター 特別任用教員（講師）

※ 日本デジタル教科書学会 若手奨励賞受賞者（2017年8月）



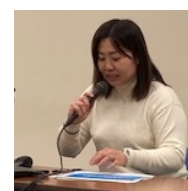
【要旨】マルチメディア DAISY、ユニバーサルデザインを志向する規格で、多様な背景を持つ児童生徒に活用できる。インクルーシブ教育を日本社会において望ましい形で実現させるための要石的な存在になる。小中学校におけるマルチメディア DAISY 教科書の活用実践研究、小中学校特別支援教育担当者に対するインタビュー調査を実施。今後は通常の学級での活用が望まれる。通常学級の教員や周囲の児童生徒の理解も必須となり、インクルーシブ教育の推進が不可欠と考える。

事例報告 14:00～14:30

小学校でのデージー教科書使用事例

奈良市立済美小学校 ことばの教室

上野 貴代 氏



【要旨】デージー利用をすすめる児童とは？ ・文字を拾い読みしている・漢字の読みが覚えにくい・思い出しにくい・飛ばし読み・勝手読みがある・白地の教科書が読みにくい・集中力が続かない・自分でスラスラ読めるけど、内容を理解できていない・将来的にノートテイクをパソコンでしていく・外国にルーツがあり、読み書きが難しい・・・など。このような児童に対してデージー教科書の効果的活用法と実践例を紹介した。

情報提供 14:40～15:20

1. ChattyLibrary の紹介（オンラインでの報告）

NPO サイエンス・アクセシビリティ・ネット代表／九州大学名誉教授

鈴木 昌和 氏



【要旨】様々な文書を、必要とする本人や身近にいてサポートする人（保護者、ボランティア、教師など）が手軽に自分（たち）で DAISY 化できるフリーサイト Chatty Library が公開された。このサイトでは DAISY 図書をブラウザだけで再生できる。現在の喫緊の課題である試験における合理的配慮のために、QuickDAISY という新しい形式で試験問題を DAISY 化することができる。現在入手できる日本のマルチメディア DAISY 図書として、どこからどんな本が提供されているかを紹介し、Chatty Library で読む方法を説明。

2. 外国人の児童生徒にもデージー教科書が使えるように法改正されたこと

立命館大学特別任用教授／名誉教授 小澤 亘 氏



【要旨】議員立法により「教科書バリアフリー法」が一部改正され2024年7月より施行された。このことにより以下の音声教材が使えます。①マルチメディア DAISY 教科書小中教科書 ②音声ペン（茨城大学） ③AccessReading（東京大学） ④UD-book（広島大学）高校教科書 ⑤BEAM（NPO 法人エッジ） ⑥UNLOCK（愛媛大学） ⑦PDF 拡大図書（慶應大学）

### 3. サピエ図書館について

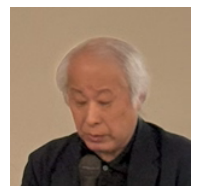
社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター製作部 数又 幸市 氏



【要旨】「サピエ図書館」で読書を楽しみましょう！サピエ図書館は、読書が困難な方のための国内最大級のインターネット図書館です。文章の理解が苦手な方／目が見えない方、見えにくい方／本を持つことの出来ない方／本や雑誌が音声で聴ける／見やすい画面と音声で読める／点字で読める～紹介動画をインターネットで公開中～「サピエ図書館で読書の喜びを！」

### 4. GIGA スクール環境下でのデジタル教科書の課題について

日本デジタル教科書学会会員／日本 DAISY Consortium 監事 井上 芳郎 氏



【要旨】GIGA スクール構想は、2019年12月に文部科学省が発表した。児童生徒一人ひとりに ICT 環境を整備し、個別最適化された教育と創造性の育成を目指す。1人1台の端末と高速通信ネットワークの整備が主な目標。総予算約4,800億円が投じられた。COVID-19の影響で、当初2023年度に予定されていた端末整備は前倒しされ、2020年度から2021年度前半にかけて急速に進んだ。第1期GIGAスクール構想で導入された端末や、ネットワーク整備など一定の効果を広げたとされる。バッテリーの消耗や端末故障、低スペックなどの問題も顕在化。2025年度以降には端末の更新時期の自治体もあり、追加的予算の投入が課題。

質疑応答：15:



## ◆ 学会誌「日本デジタル教科書研究」への投稿募集

デジタル教科書研究の投稿論文を随時募集しています。一般論文、展望論文、実践論文の3つのカテゴリーがありますが、実践論文を積極的に評価しています。原著論文ほどの厳密さがなくても、実験段階の理論を実践的に応用した研究、新しいアイデアの実践的検証等を報告論文として積極的に評価します。もちろんアカデミックな一般論文、展望論文も歓迎します。

デジタル教科書研究の詳細については、学会ウェブサイトをご覧ください。

<https://js-dt.jp/2013/12/3354/>

論文の投稿、お待ちしております。

デジタル教科書学会編集委員長 山口大輔（流通経済大学附属柏中学校）

## ◆ 実践研究論文化支援プロジェクトの参加者募集

「実践研究論文化支援プロジェクト」の参加者も募集しています。

優れた実践が多数あると思いますが、実践者は必ずしも実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家ではないため、「学術研究として実践を公開して貢献したいが、論文執筆の方法がわからない」という方もいらっしゃると思います。

そこで、実践者から優れた実践を公募し、実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家である本学会所属の研究者が協力することで、査読論文としての公開を支援するプロジェクトを実施しています。随時募集しています。相談だけでも結構です。知の蓄積に貢献しませんか？

詳細はウェブサイトをご覧ください。

[https://js-dt.jp/supprt\\_project-2/](https://js-dt.jp/supprt_project-2/)

実践研究論文化支援プロジェクトへのお申し込み、お待ちしております。

デジタル教科書学会研究委員長 稲田健実（福島県立相馬支援学校）

## ◆ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト ([http://js-dt.jp/research\\_support/](http://js-dt.jp/research_support/)) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

## ◆ 研究会開催助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催支援、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に、研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイトをご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

(本学会サイトトップページ上部の“学会への申請一覧”の“研究会開催助成について”をご覧ください。申請書もこちらからダウンロードして頂くことができます。)

([http://js-dt.jp/seminar\\_support/](http://js-dt.jp/seminar_support/))

## ◆ 会員の声 Vol.3 (茨城県立竹園高等学校 岩崎啓子)

茨城県では、令和5年度から「デジタル・シティズンシップ教育推進事業」が始まりました。生徒がデジタルを活用し、主体的に課題解決に取り組むことを支援する事業です。

私自身、茨城県立竹園高等学校で英語科の教員として勤務し、ICTの活用を模索しながら指導を工夫しています。茨城県の高等学校ではBYOD環境が定着し、生徒が自ら選んだデバイスを活用する姿が増えました。本校の英語教育でも、生成AIを活用した授業デザインの構築など、ICT活用の可能性が広がっています。

また、全国的に教員向けのICT活用研修が進み、教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)が求められています。本学会での知見の共有は日本の教育発展に寄与するものであり、私も微力ながら貢献できればと考えております。

今後とも、会員の皆様とともにICTを活用し、生徒と共に成長できる教育の可能性を探究してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

